

安全なキャンプのために

～楽しく学ぶキャンプの安全～ Part 8



「キャンプの安全」を楽しく学ぼう

キャンプにおける安全の問題は重要であるがために、今までの安全教育は堅苦しく、重々しく、楽しくないものでした。この安全の問題を楽しく学習し、安全の意識や知識を高めることができないかと考え、この冊子を作成しました。

キャンプの安全が重要であっても、それを学ぶ方法は子どもの興味を引き起こし、子どもにとって親しみやすい方が効果があがるでしょう。この冊子では、キャンプに参加する子どもやキャンプリーダーが、ゲームや話し合いを通して、安全の問題を考え、知識を得ることができるいくつかの手法を紹介しています。

前半は、イラストを見て潜んでいる危険要素を見つける「危険予知エクササイズ」と、事故対応や危険回避の問題を皆で話し合う「リスクマネジメントエクササイズ」を紹介しています。後半は、安全や応急処置に関するクイズや問題を紹介し、これを素材にして「ビンゴゲーム」や「○×クイズ」等に活用してもらえるようにしています。

「キャンプの安全」を楽しく学び、これを生かし、ひとりでも多くの人々が安全で楽しいキャンプをすることができるよう願っています。



も く じ

| | |
|-----------------|----|
| 危険予知エクササイズ | 1 |
| リスクマネジメントエクササイズ | 6 |
| 安全○×問題を使ったゲーム紹介 | 11 |
| 安全○×問題例 | 12 |
| 安全3択問題を使ったゲーム紹介 | 16 |
| 安全3択問題例 | 17 |

危険予知エクササイズ

危険予知エクササイズは、キャンプで想定されるいくつかの場面を取り上げ、その場面にある危険を考えることによって、安全で楽しいキャンプを作り上げようとするものです。最初はイラスト（絵）を見て、その中にある危険なところを一人でチェックしてみましょう。その次のページの解説を見ながら、仲間や家族たちと話し合っ、安全キャンプのための方法を確認しましょう。

また、多くの子どもたちが集まって学習するときは、小グループに分かれて、グループを中心とした学習展開をすることができます。

《展開例》

- ① イラストを見てその中の危険箇所を各個人で考える。
- ② グループ内で順に個人の考えた危険箇所を発表し、重複するものは整理して、グループ全体で何箇所になるかまとめる。
- ③ その中で最も危険性が高いと思われるのは何か、それは何故かを、グループで話し合う。
- ④ 各グループの整理した危険箇所と危険度の高いものを順に全体の前で発表していく。
- ⑤ 全体として何が一番危険か、それを防ぐためには何が必要か、をグループや全体で考える。

ここでは「テント設営での危険」「野外料理での危険」の2つのイラストとその答えを紹介しています。

日本キャンプ協会の「安全なキャンプのためにPART4」では、

- ① テント設営での危険
- ② キャンプ場での危険（昼間・夜間）
- ③ 野外料理での危険（総合編・燃焼器具編・調理器具編）
- ④ ハイキングでの危険
- ⑤ 川遊びでの危険
- ⑥ 海辺での危険
- ⑦ キャンプファイアーでの危険

等のイラストと答えを掲載していますのでご活用ください。



※ 指導者資格をお持ちの方はホームページからダウンロードできます。

問題例 1

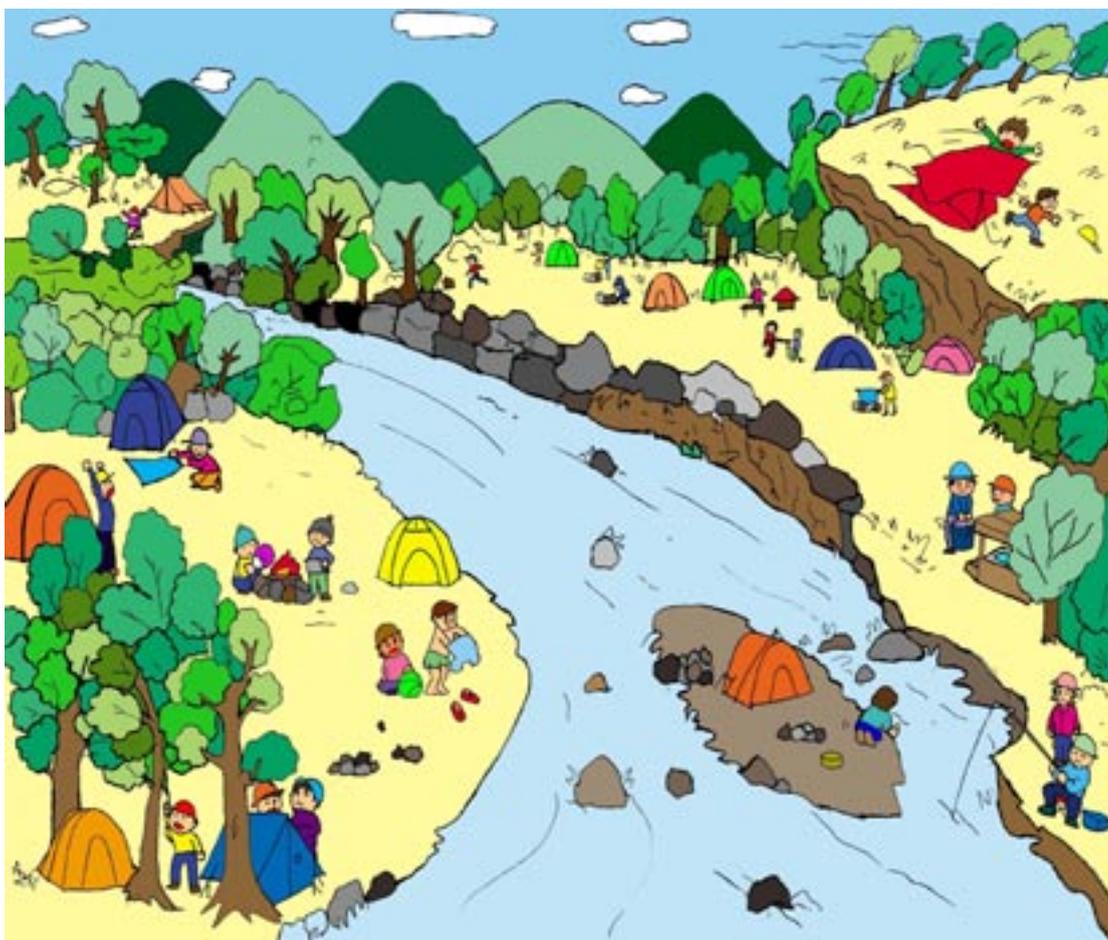
【安全なキャンプのために PART 4 より抜粋】

★テント設営での危険

どこにどのような危険があるか考えてみよう！！

楽しそうにキャンプをしています。いろいろなところにテントが張られていますが、事故につながる危険な場所に張られたテントも見かけられます。

危険なところに張られているのはどのテントで、どのような危険があるか、みんなで考えてみましょう。



★テント設営での危険 ここが危ない！！

① 風が吹き抜ける場所にテントが張られている



テントが風が吹き抜ける場所に張ってあります。このように周囲に風をさえぎるものがなく、吹きさらしになる場所では強い風が吹きやすく、テントごと飛ばされる危険があります。また、夜間に強い風が吹くとテントがバタバタと音をたて、一晩中寝られないということもあります。睡眠不足から体調を崩すことにもなりかねません。

このような危険や、健康を損なうことがあるので、風が吹き抜ける場所にはテントを張らないようにしましょう。

② 崖の上にテントが張られている

テントが崖の上に張ってあります。崖はいつ崩れ落ちるかわかりません。崖崩れによりテントごと落下する危険があります。また、夜間に行動するときなど懐中電灯の明かりだけでは、足を踏み外して崖から転落する危険もあります。

崖の上にはテントを張らないようにしましょう。



③ 崖の下にテントが張られている



テントが崖の下に張ってあります。崖はいつ崩れ落ちるかわかりません。崖崩れが起きると、土砂でテントごと押しつぶされてしまう危険があります。また、雨や風、ちょっとした振動などによって落石の危険もあります。

崖の下にはこのような危険がありますので、テントは張らないようにしましょう。

④ 河原や中州にテントが張られている

テントが河原や中州に張られています。河原や中州は雨などで川が増水して、テントごと流される危険があります。特に中州は晴れているときは陸のように見えますが、いったん雨が降ると増水し川底となり、テントが流される危険があります。



1999年8月、神奈川県山北町を流れる玄倉川の中州で、キャンプしていたファミリーキャンパー18人が大雨で増水した川にテントごと流され、子どもを含めた13人が亡くなりました。

川の中州は、川底と同じだと考え、テントは絶対に張らないようにしましょう。

⑤ 木の下にテントが張られている



テントが木の下に張られています。木の下は安全のように思われますが、雷の多い所では、木に落ちた雷の側撃を受ける危険があります。木のそばにテントを張るときには、木を地面から見上げる角度が45度以上の範囲内で、なおかつ、木の枝、葉、幹から最低4メートル以上離れた場所が安全な場所といわれています。

また、木によっては、強風によって倒れたり折れたりすることによる危険もあるので注意しましょう。

問題例 2

【安全なキャンプのために PART 4 より抜粋】

★野外料理での危険

どこにどのような危険があるか考えてみよう！！

キャンプで野外料理をするとき、日常ではあまり使用しない器具を使って料理を作ることが多くあります。

キャンプで手軽に便利に使われている器具でも、使い方を間違えると思わぬ事故につながる危険があります。この場面は燃焼器具を使用して、食事の準備をしているところです。どこにどのような危険があるか、みんなで考えましょう。



★野外料理での危険 ここが危ない！！

① テントの中でコンロを使用している

テントの中でコンロを使用しています。密閉したテントの中でコンロ類を使用すると、酸欠や一酸化炭素中毒、テント火災などの危険があります。

テントの中ではコンロを使用しないようにしましょう。特に七輪の使用は厳禁です。





② 河原にコンロを置いて使用している

コンロを河原に直接置いて使用しています。夏の炎天下の河原や砂浜などは、石や砂が直射日光で焼けて熱くなり、コンロのガスカートリッジが加熱され爆発する危険があります。

ガスカートリッジが直接加熱されるような場所ではコンロを使用しないようにしましょう。

③ コンロで炭火を起こしている

コンロの上で炭の火起こしをしています。コンロの上で炭や練炭などの火起こしをすると、輻射熱でコンロ内のボンベが過熱して爆発する危険があります。

炭の火起こしにはガスコンロ等を使用しないようにしましょう。



④ 鍋がコンロを覆っている

コンロの上のせてある鍋が、コンロを覆っており、風よけのために周囲が囲まれてしまっています。コンロが完全に覆われてしまうと、ガスボンベに熱がこもりボンベが過熱して爆発する危険があります。

コンロを覆ってしまうような使用は避けましょう。

⑤ 火気の近くでコンロを使用している

火が燃えているかまどのすぐ側で、コンロを使用しています。火気からの輻射熱で、コンロ内のボンベが過熱して爆発する危険があります。

かまどに限らず火気のすぐ近くでのコンロの使用は避けましょう。



⑥ 不安定な場所でコンロを使用している

積み上げた石の上でコンロを使用していますが、コンロが傾いています。このままでは、いつ滑り落ちるかわかりません。コンロが滑り落ちると、やかんや鍋で熱せられていた熱湯や煮物などが飛び散って火傷を負う危険があります。

コンロは平らで安定した場所で使用しましょう。

⑦ コンロを2台並べて使用している

鉄板焼をしています。鉄板の下を見るとコンロを2台並べて使用しています。コンロを2台以上並べて使用すると、コンロ内に熱がこもりボンベが過熱して爆発する危険があります。

コンロを並べて使用することは絶対にしないようにしましょう。



リスクマネジメントエクササイズ

リスクマネジメントエクササイズ（以下RME）では、野外活動のいろいろな場面における事故防止や安全対策、危険回避の問題を自らの問題としてとらえ、グループ討議によって様々な意見や考え方を共有していきます。意見交換やコンセンサス形式の過程で多くの発見があり、安全に関する多くの知識を得ることができます。

RMEでは①「事前の予防対策」 ②「事故発生時の対応」 ③「危険回避」の3つの領域を主な内容としており、いろいろな問題事例をグループで話し合い、情報交換しながら、知識や方法を共有していきます。「危険回避」の問題には正解があり、「事前の予防対策」と「事故発生時の対応」問題には正解がありません。グループでの話し合いの中で、個人では気がつかなかった多様な対策や対応が共有され、個人の危険回避能力、安全対策能力、事故対応能力が高められます。

《用意するもの》

① 問題カードまたは問題用紙

問題カード（用紙）は1枚のカードに1問題～数問題が書かれている

*後のページの例題参照

② 回答札（1 2 3と数字の入っているもの）

回答札はカード状のものでもいいし、棒に1 2 3の札を取りつけたプラカード式のものでもいい

③ ポーカーチップ

〔少数意見チップ〕～1問題につきその回答が1人しかいなかったときにその回答者に与える

〔多数意見チップ〕～1問題につきその回答がグループの過半数あったときにその回答者に与える

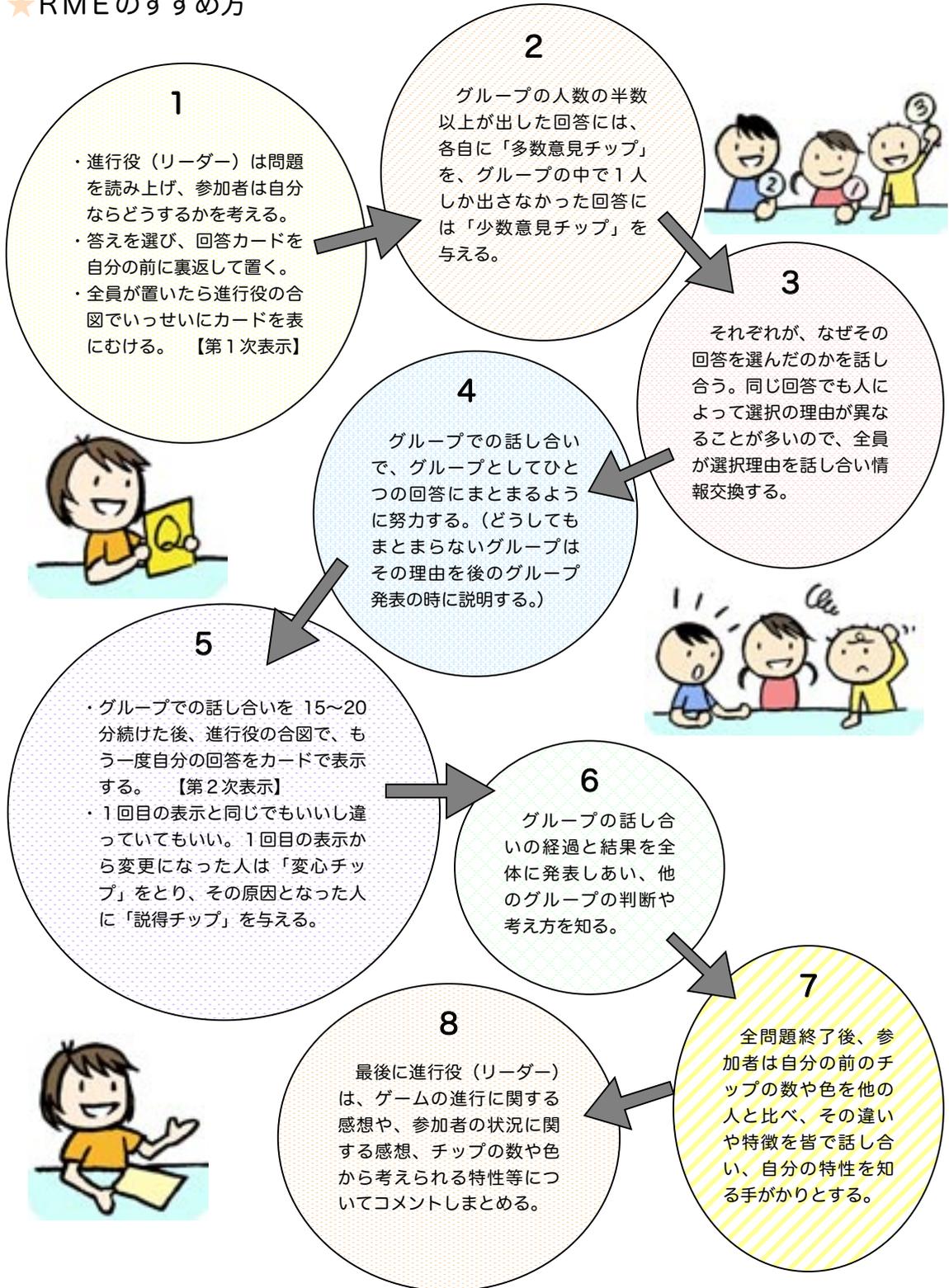
〔変心チップ〕～「第1次表示」の時と、グループでの意見交換の後の「第2次表示」で回答が変わった人に与える

〔説得チップ〕～変心チップを受けた人が、意見を変える原因になった人に与える

問題は「事故予防安全対策問題」「事故対応トラブル対応問題」「危険回避能力問題」とも8問あり、冊子「リスクマネジメントエクササイズ実施のてびき」に詳しい説明と問題用紙が添付されています。

※ RME冊子はリスクマネジメントセミナーや支部協会事業でのアクティビティに参加された方に無料配布しています。

★RMEのすすめ方



★RME問題例

【RME実施のてびきより抜粋】

＜事故予防・安全対策問題＞

○ハチの巣

8月のキャンプ中、キャンプ場のテントサイトから約20メートル離れた木の上約3mに、大きなスズメバチの巣が発見され、ハチが活発に活動していることもわかった。そのときあなたはどのようにしますか？

- ① すぐにハチの巣ごとすべての蜂を撤去する。
- ② ハチの巣のある木の周囲にロープを張り、その木の上にハチの巣があることを、注意板で明示する。
- ③ 全員に口頭でハチの巣のあることを伝え、近くへ行かないように注意する。



○軍手の使用

キャンプ中に何回か野外炊さんをするため、参加者に軍手を用意させることにした。火を扱うので革の軍手が最も安全と聞いてはいるが、全員に革の軍手を用意させることは無理で、かといって化学繊維の軍手では心配。そのときあなたはどのようにしますか？

- ① 化学繊維の軍手は高温には弱いので、火を扱う人のための革軍手だけは主催者で準備し、個人の持参する軍手は自由とする。
- ② 純綿の軍手は革軍手ほどではないが、化学繊維よりは熱に強いので、全員に純綿製の軍手を用意するように指示する。
- ③ 全員に野外炊さんに使うことを伝えて、自由に軍手を用意させる。みんなが持ってきた軍手を見て、みんなにその軍手の熱に対する強さを説明し、軍手に応じた役割分担をする。



《事故対応・トラブル対応問題》

○登山中の雷鳴

8月に中学生10人を引率して登山中、上空は晴れているのだが遠くの空に雷雲（積乱雲）の発生が見られ、遠くの方から雷鳴が聞こえてきた。しかしあと30分ほど登れば頂上に着く。そのときあなたは引率者としてどうしますか？

- ① すぐに全員をつれて下山する。
- ② 上空は晴れているので、その場にしばらく止まり、雲の変化や雷鳴の変化を慎重に観察してから、登るか下山するかを決める。
- ③ 上空は晴れており、雷鳴も遠いので、変化を慎重に見ながら頂上をめざして進む。



○テントの中の蚊

みんなでテントで寝ていたところ、テントの中に数匹の蚊が入ってきて、寝つけない子どもがでてきた。よく見るとテントが古いため数箇所に穴があいており、そこから蚊が入ってきたことがわかった。そのときあなたはテントの中のリーダーとしてどうしますか？

- ① 蚊のいるところで寝るのもひとつの自然体験なので、そのまましておく。
- ② 殺虫剤等を使って蚊を退治し、そのあと虫除けスプレー等で蚊に刺されないようにして寝る。
- ③ みんなを起こしてテントの穴を調べ、蚊が入ってこないように応急処置をしてから寝る。



《危険回避能力問題》

○ヘビに襲われないためには

山の中をハイキング中、「マムシ注意！」の立て札が何ヶ所も立っている湿地帯に来た。まわりにはヘビがいそうな草むらが多く、道はその中を通っている。

そこであなたはヘビに襲われないためにどうしますか？

- ① これ以上進むと危険なので、今来た道をもどる。
- ② ヘビに気付かれないよう、足音をたてないで静かに進む。
- ③ 足をバタバタしたり、枝で草をたたいたりして大きな音を出しながら歩いていく。



解答：③

日本に生息する毒ヘビはマムシ・ヤマカガシ・ハブ等で、マムシは沖縄以外の日本全国の山地、田畑、草地に生息している。しかし攻撃性は弱く積極的にヘビの方から攻撃してくることはまずない。そのためヘビのいそうな所では、大きな音を出したり、声を出したりして人の存在を知らせることで、ヘビは逃げていく。静かに歩いてヘビに近づいて驚かせると危険。ヘビは夜行性の生き物なので夜は危険。

○スズメバチに遭ったらどうする

ハイキングで山の中を歩いているとき、急にスズメバチが2～3匹飛んできて、身体にまとわりつくように飛び回ってはなれない。いくら追い払ってもすぐに近づいてくる。

こんなとき、あなたはこれ以上スズメバチの攻撃を受けないためにどうしますか？

- ① 身体をできるだけ低くして、静かに歩いていく。
- ② そこに止まって、身体を低くして、ハチが去るのを待つ。
- ③ すぐに今来た道をもどる。



解答：③

スズメバチの巣に近づくと、まず2～3匹のハチが近づいてきて、身体にまとわりついて威嚇(いかく)行動をする。これは巣が近くにありこれ以上近づくなというハチの警告で、これ以上巣に近づくと、ハチの大群の攻撃に遭う可能性がある。このような偵察ハチの動きを見たら、それ以上巣に近づいては危険。

○×問題を使ったゲーム

★○×サバイバルゲーム

(広い場所があれば100人以上でも可能)

A：参加者全員に○と×のカード(ボードなど)を持たせ立たせる。リーダーが問題を読み上げ、参加者が○か×のカードをその場で表示する。その後リーダーが正解を伝え、正解者は残り、不正解者はその場に座っていく。何回かくりかえし、残った人間が少なくなったら、その人たちを紹介したり称えたり、賞品を与えたりする。



B：参加者の中央に線を書くかロープを張って、その片方を○ゾーン、片方を×ゾーンとして、参加者にわかるよう明示する。リーダーが問題を読み上げ、参加者は○×どちらかのゾーンへ移動する。その後正解を伝え、正解者だけが残り、正解者だけで次の問題に挑戦する。問題ごとに人間が減っていくので適当なところで(A)のように終わる。



★○をさがせゲーム

林や建物の中など一定の広さの範囲に、一問ずつ問題を書いた紙を20～30枚隠しておく。各問題には必ず通し番号をつけておき、参加者は自分で範囲内に隠された問題を探す。探した問題を解き、その答えが○のものだけ問題番号をメモしていく。

時間を決めて集合場所へ戻ってきてもらい、答えが○の問題をいくつ見つけれられたかで順位を決めたり、決められた数の○の問題を早く集められた順に順位を決める。



★グループ対抗陣取りゲーム

歩幅1歩分の長い線を等間隔で10本くらいひいておく。その両側に各グループの参加者が向かい合って立ち、リーダーが問題を読み上げるので全員一緒に問題を解く。問題に正解した人だけが1歩相手の陣地に近づく。反対に、不正解だった場合は、1歩下がる。(スタート地点より後ろには下らない。)途中、敵とぶつかりあうが気にせず問題を解き続け、正解したら1歩進み不正解なら1歩下がりを繰り返す。



どちらかのグループの誰かが先に相手陣地に到着したら、そのグループの勝ちとする。もしくは、決められた問題数を終了した時点で、相手陣地へ到着した人数の多いグループを勝ちとする。

安全○×問題例



《準備・知識編》

- 1 キャンプにテントは必ず必要 ×
- 2 キャンプ保険は家族キャンプのときは必要ない ×
- 3 キャンプの計画は体力のないお年寄りや子どもにあわせる ○
- 4 当日何をしたらよいかわからなくならないように計画は綿密に立てる ×
- 5 ロープワークを覚えておくと、キャンプ生活が便利になる ○
- 6 緊急事態が発生することを予測して、緊急の際の連絡網をつくっておく ○
- 7 キャンプ場には、病院がないから健康保険証は持っていかなくてもよい ×
- 8 懐中電灯は、両手が自由になるヘッドランプタイプのものが望ましい ○
- 9 テント選びのポイントは、とにかく大きなものがよい ×
- 10 3人でキャンプをする場合には、テントの大きさは、3人用のテントを使うのがよい ×
- 11 テントを選ぶ場合は、居住性、防水性、通気性がよく、保温性に優れ、耐久性があるものがよい ○
- 12 夏だから夜も暑いし、長袖（トレーナー類など）は持っていかなくてもよい ×
- 13 夏であれば服がぬれていてもすぐに乾くので、着替えを多めに持っていかなくてもよい ×
- 14 新品のウインドブレーカーなら雨具にも代用できる ×
- 15 軍手の素材としては、綿よりは化繊のものが望ましい ×
- 16 ペットは、動物なのでキャンプ場に連れて行ってもよい ×
- 17 ミニマムインパクトとは、「自然へのダメージを最小限に」という意味である ○
- 18 帰るときは、道具の忘れ物やゴミがないかどうかをチェックして、来たときの状態に戻すことが原則 ○
- 19 ゴミを持ち帰る場合、コンビニやサービスエリアにゴミ箱があるのできちんと分別して捨てるのがよい ×
- 20 事前に傷害保険に加入していたが、ハイキングで靴擦れを起こした。帰宅後に病院に行ったが治療費は保険金として受けて取れる ×

《キャンプ生活・活動編その1》

- 1 自然の中は雨が降るだけでも地形が変わってしまうことがあるので、管理人や地元の人に危険な場所を聞いておく ○
- 2 キャンプ場で気分を盛り上げる為に、好きな音楽をラジカセで大きな音で流すのはよい ×
- 3 花火をするときは、キャンプ場のルールに従ってする ○
- 4 テントを設営する場所は、平地で乾燥しているところがよい ○
- 5 水が近くにあると便利なのでテントは河原に立てるのがよい ×
- 6 大きな木の下は涼しくてテントを立てるのに最もよい ×
- 7 夕食時のランタンは、少し離れたところに明るいのを置き、手もとに暗いのを置くのが望ましい ○
- 8 テントの中ではガスランタンが明るくて便利 ×
- 9 テントの中ではガスコンロは使わない ○
- 10 テントの中では火災の原因にもなるため蚊取り線香は使わない ○
- 11 寝るときは刃物は出しっぱなしにしないでテントにしまう ○
- 12 テントの中に雷は落ちないので安心だ ×
- 13 テントは乾燥させて撤収するのがよいので、火の近くで乾かすとよい ×
- 14 雷が鳴っているとき、木のすぐそばで雨宿りをするのは危険である ○
- 15 金属を身につけていなければ雷は人体に落ちることはない ×
- 16 ナタやのこぎりを使うときは両手に必ず軍手をする ×
- 17 刃物は、よく切れないぐらいが丁度よい ×
- 18 刃物を持っているときは、他のものに気をとられないで、あわてないでゆっくり切ることが大切である ○
- 19 ナイフで木を削るときには、刃を自分の方に向けて削る方がよい ×
- 20 刃物は使い終わった後、すぐ使う機会があるのでそのまま置いておいても大丈夫 ×



《キャンプ生活・活動編その2》

- | | | |
|----|--------------------------------------|---|
| 1 | 川原や水辺での活動時にはかかとが固定された濡れてもよい靴を履く | ○ |
| 2 | 川原や水辺での活動では水に入ったりするため半袖・半ズボンという服装でよい | × |
| 3 | 天気予報が晴れならば、登山に雨具を持って行く必要はない | × |
| 4 | 登山中、道に迷ったら分かるところまで戻る | ○ |
| 5 | 山歩きはジーパンが歩きやすい | × |
| 6 | 登山では登りよりも下山中の事故が多い | ○ |
| 7 | 体感温度は風速10mにつき1℃冷たく感じる | × |
| 8 | 日射病や熱射病を予防するためにはこまめに水分を補給するとよい | ○ |
| 9 | クマに出会ったら死んだふりをするとよい | × |
| 10 | ハチが頭の周りを飛び回っていたので、手で追い払う | × |
| 11 | ハチの毒液は水に溶けやすいので、刺されたところを水で洗うとよい | ○ |
| 12 | 料理にはおいしい沢の水を利用する | × |
| 13 | 自生している野草やきのこは野外ならではのぞ馳走、何でも試してみる | × |
| 14 | 熱いものを持つときには、軍手を濡らした方がよい | × |
| 15 | 火を扱うときは火に弱い素材の軍手は避け、木綿がよい | ○ |
| 16 | 河原だったら水がそばにあるのでどこでも直火で焚き火してよい | × |
| 17 | ガスコンロは風よけのために全体を囲むと効率がよい | × |
| 18 | 鉄板に合ったコンロがないときは、コンロを2つ並べて使うとよい | × |
| 19 | やけどをしてしまったら、まずは冷やすことがよい | ○ |
| 20 | ガスカートリッジを捨てる際には、必ずガスを抜くようにするのがよい | × |



解答・解説

《12ページ 準備・知識編》

- 1：キャンプ場によっては貸し出しもある。コテージ・バンガローなどの宿泊もキャンプである。
- 4：綿密に立てすぎても上手くいかない。ある程度のゆとりも大切。
- 7：持ち物の1つとして持っていったほうがよい。何かあった緊急時に必要なときもある。
- 9：人数に合わせて大きさを考える。
- 10：使用人数プラス1～2名程度がよい。
- 12：夏でも気温が低くなることもある。
- 14：ウインドブレーカーでは激しい雨の時、縫い目から雨がしみてくることがある。
- 15：化繊よりも綿の方が火に強い。
- 16：ペット不可のところもある。キャンプ場によって可・不可が異なるので要確認。
- 19：キャンプ場から持ち帰る場合は家まで持っていくことがマナー。
- 20：傷害保険の対象は原則として、偶然・急激・外来によるもの。凍傷・高山病・熱中症・持病などの病気や靴擦れについては対象外となる。

《13ページ 生活・活動編1》

- 2：自然の音を楽しむ人もいる。周りの人のことも考えて行動を。
- 5：天候が急変すると大事故につながるので河原は避ける。
- 6：落雷の危険あり。枝が折れて落ちてくることもある。
- 7：明るいうランタンの方へ虫が寄っていく。
- 8：ろうそくやガスランタンは火災、一酸化炭素中毒の原因となる。テント内での使用は厳禁。
- 11：安全にテント内にしまうことが望ましい。
- 12：テントのポールは落雷を受けやすい。
- 13：火の粉でテントに穴が空くことがある。自然乾燥で乾かす。
- 15：人体も非常に雷の電流を通しやすい。
- 16：滑りやすくなるので刃物を持つ手には軍手はしない。
- 17：切れない刃物を使うと余計な力が必要になるので危険。
- 19：周りに人がいないことを確認し、刃が自分の方に向かないようにする。
- 20：使わないときはケースに入れて安全なところへ置く。



《14ページ 生活・活動編2》

- 3：山の天気は変わりやすい。
- 5：ジーパンはひざの曲げ伸ばしがしにくい。また濡れると乾きにくいので山歩きは不向き。
- 7：風速1mにつき1℃下がる。
- 9：死んだふりをするよりは、目をそらさずに静かに立ち去るのがよい。逃げたり、背をたると追いかけてくる。それよりも出会わないようにすることのほうが大切。
- 10：手で払うとハチを興奮させる。身を低くしてその場から静かに離れる。
- 12：上流に人家や田畑がある場合は飲まない方が安全。わき水ならおいしいものもある（地元の人に聞いてみる）。
- 14：軍手の水分が一気に熱せられてやけどの可能性あり。
- 15：化繊やゴム引きは熱には不向き。綿100%のものは化繊に比べれば熱に強いが、革手袋がオススメ。
- 16：直火の焚き火は禁止。水分を含んだ石は熱すると破裂する恐れあり。
- 17、18：ガスボンベが熱せられて爆発の恐れあり。非常に危険。
- 19：とにかく冷やす。その後病院へ。患部を清潔にしておくことも大切。
- 20：ガスカートリッジの処理はアウトドアショップやキャンプ場の指示に従う。

3 択問題を使ったゲーム

★ 3 択問題サバイバルゲーム

参加者全員に 1・2・3 の番号カード(ボード)を持たせ立たせる。リーダーが問題を読み上げ、全員が答えの番号カードをその場で表示する。リーダーが正解を伝え、正解者は残り、不正解者はその場に座っていく。何回かくりかえし残った人間が少なくなったら、その人たちを紹介したり、称えたりする。



★ グループ対抗 3 択ゲーム

4～5 人のグループをつくり、全参加者に 1・2・3 の番号札(カードまたはボードでもよい)を配る。

リーダーは問題を読み上げ、参加者はまず個人でその答えを考え、合図で同時に番号札を挙げる。グループ内で答えが分かれた時は、グループで話し合い、グループとしての答えを決める。そのあとグループごとに一斉に解答の番号札を表示する。

リーダーは正解を発表し、正解のグループに得点や正解チップを与え、その正解数で順位を決める。



★ 安全ビンゴゲーム

参加者は各自の紙にたてよこ 4×4 の 16 マス、又は 5×5 の 25 マスを作り、その中に 1～16 または 1～25 の数字をランダムに書き入れる。

1～16 または 25 までの通し番号をつけた問題を用意しておき、問題をクジで選んだり、参加者に選んだりしてもらう。問題の解答をみんなで考え、正解を発表する。正解者はその問題番号に○をつけていく。○がタテ・ヨコ・ナナメ 4 つ又は 5 つそろったらビンゴとなる。ビンゴになる早さだけでなく、16 問又は 25 問全部終わった時に、何列できたかで順位を決める。

※このゲームは 3 択問題だけでなく、○×問題を使ってでもできる。



安全3択問題例

《一般問題①》

- ① 日本における、1年間で水難事故によってなくなる人の数はどれくらい？
- A 約100人
 - * B 約1000人
 - C 約10000人
- ② テントを立てるときの入り口の方向はどっち向き？
- A 風上
 - * B 風下
 - C 風に対して直角に
- ③ 山で事故が発生しやすいのはどこ？
- A 登り坂
 - * B 下り坂
 - C 山頂付近
- ④ 標高1000mの山頂で約5mの風が吹いていると、平地に比べてどれくらい温度差があるか。
- A 5℃前後低い
 - * B 10℃前後低い
 - C 15℃前後低い
- ⑤ 熱中症を予防するためには何を補給すればよいか。
- A 水分を補給する
 - B 水分と糖分を補給する
 - * C 水分と塩分を補給する
- ⑥ ナタで薪を割るとき、軍手をつけるのは？
- A 両手
 - B ナタを持つ手
 - * C 薪を持つ手



- ⑦ 雷が近づいているとき、避難するのによい場所はどこ？

- A 木の下
- B テントの中
- * C 車の中



- ⑧ 一酸化炭素がヘモグロビンと結合する力は酸素の結合力の何倍か。

- * A 250倍
- B 100倍
- C 50倍

- ⑨ 山の中でテントを立てるのに安全な場所は？

- A 尾根筋
- B 谷筋
- * C 尾根と谷の間（中腹）

- ⑩ 刃物を相手に渡すときはどのように渡せばよいか。

- A 刃の先を相手に向ける
- * B 柄（え）の先を相手に向ける
- C 刃の背を相手に向ける



《一般問題②》



- ⑪ 山の中でクマに出会ったらどうする？
A 全速力で逃げる
B 死んだふりをする
* C クマの目を見ながら後ずさりする
- ⑫ スズメバチが好む色は何色？
A 赤
* B 黒
C 緑
- ⑬ スズメバチの活動が活発になる時期は？
A 冬から春にかけて
B 春から夏にかけて
* C 夏から秋にかけて
- ⑭ ザックの中に荷物をいれるとき、どのようにすればよいか。
A 重いものを下にすると安定がよくなる
* B 重いものを上にすると歩きやすい
C 重いものを均等に入れると疲れない
- ⑮ 平成17年度の水難事故発生件数は1363件であるが、これは10年前に比べるとどれくらい減っているのか。
A 約10%減
B 約20%減
* C 約30%減



- ⑯ 年間を通して水死者が最も多いのはどこ？
* A 海
B 河川
C 用水路
- ⑰ 年間の水死者数を行為別でみると最も多いのは？
A 水泳中
B 通行中
* C 魚とり魚釣り中
- ⑱ キャンプのプログラムで森の間伐作業をするときに適した軍手はどれ？
A 純綿性軍手
B 化学繊維性軍手
* C 繊維の上にゴムを塗装した軍手
- ⑲ キャンプのプログラムで野外炊さんをするときに適した軍手はどれ？
A 純綿性軍手
B 科学繊維性軍手
* C 革製軍手
- ⑳ 日本で毒ヘビに噛まれて死ぬ人とハチに刺されて死ぬ人を比べると？
A ヘビに噛まれて死ぬ人が多い
* B ハチに刺されて死ぬ人が多い
C どちらも同じくらい多い



《応急処置問題①》

① 倒れている人を発見したとき、まず何をしますか？

- * A 声をかけ意識をしらべる
- B 呼吸の有無をしらべる
- C 脈拍をしらべる

② 鼻血が出たときどうしますか？

- A 首の後ろをトントンたたく
- B 平らな所に仰向けで寝かせる
- * C 鼻翼をつまむ



③ 足首を捻挫したときどうしますか？

- A 足首をよくマッサージする
- B 足首をよく暖める
- * C 足首をよく冷やす



④ 骨折かどうかよくわからないときどうしますか？

- A その部分を触って痛みをみる
- B その部分を動かせるかをみる
- * C その部分を安静にさせておく

⑤ 生命に危険を及ぼす出血量は？

- A 全血量の1/2の出血
- * B 全血量の1/3の出血
- C 全血量の1/4の出血



⑥ ケガをした子どもがショック症状を起こし顔面蒼白となってきたときにどうしますか？

- * A 毛布等で保温し安静に
- B アンカ等で加温し安静に
- C 涼しいところで安静に



⑦ 日本における病院外での心停止の発生件数は、年間何件程度か。

- A 1～2万件
- * B 2～3万件
- C 3～4万件

⑧ AED（自動体外式除細動器）の使用については？

- A 医師の指導のもとで使用可
- B 救急法の資格があれば使用可
- * C 誰でも使用可



⑨ 意識のない患者の体位は？

- A 平らな所で仰向けに寝かせる
- B 平らな所でうつ伏せに寝かせる
- * C 呼吸しやすい体位で寝かせる

⑩ 脳貧血のときの脈拍は？

- * A 弱い脈が遅い
- B 弱い脈が速い
- C 強い脈が遅い

《応急処置問題②》



⑪ 体表面積の何パーセント以上の火傷が重傷で危険といわれているのか。

A 10～20%

* B 20～30%

C 30～40%

⑫ 犬やネズミ等動物に噛まれて傷ができたときはどうする？

A すぐに冷たい水で傷口を冷やす

* B 石鹸を使って水で傷口を洗う

C すぐに傷口を消毒する

⑬ 水に溺れている人を発見したら、まず何をする？

A 泳力に自信があれば泳いで救助する

B 一人でも多くの人に知らせる

* C 泳がないで救助する方法を考える



⑭ タンカで患者を運ぶときの進行方向は？

* A 足の方から進む

B 頭の方から進む

C 傾斜や階段等の状況を見ながら決める

⑮ 倒れている患者に呼びかけても意識がないときは？

A すぐに心臓マッサージを始める

B すぐに人工呼吸を始める

* C すぐに気道確保をする



⑯ スズメバチに刺されたときの応急処置は？

A 傷口にアンモニアを塗り消毒する

* B 傷口から毒液を搾り出して水で洗う

C すぐに傷口を氷で冷やす

⑰ ショック症状を起こしたときは？

* A 顔面蒼白、脈は速く弱い

B 顔面紅潮、脈は速く大きい

C 顔面蒼白、脈はおそく弱い

※なお、3択問題の解答は、それぞれ「*」印のついているものとなる。





キャンプは遊び。でも、人生に必要な遊びがたくさん学べる遊びです。

●自然そのものが
もたらしてくれる学び

自然の中は、人間の五感に働きかける不思議な刺激で満ちています。これらの刺激は、私たちの感動や驚き、知的好奇心や探究心を喚起させてくれます。そして直接実物を見たり聞いたり、触れたりする経験は、知識を本当の意味での知識として定着させることに役立ちます。

●集団による活動・共同生活が
もたらしてくれる学び

キャンプにおける小グループでの生活や活動は、一人ひとりが自主的・主体的に行動し協調性のある態度や行動をとることが求められています。キャンプは、他者との深い交流の中で信頼感を育て、より良い人間関係のあり方を学ぶ機会を提供してくれます。

●自然の中での生活や活動が
もたらしてくれる学び

自然に対する理解は、日常生活における環境保全や自然愛護への積極的な態度を培います。また、自然の中での素朴な生活や活動は、向上心や想像力を育むことにつながり、キャンプで得た知識や技術は、危険を回避し安全を確保する能力、自らの安全は自らが守るという意識を高めます。

●新しい体験が
もたらしてくれる学び

キャンプでの普段味わうことのできない新鮮な活動は、これまで気が付かなかった自己の長所や能力を発見し、短所を知る機会となります。そして、自然を活用した楽しく新鮮な活動は、生涯にわたって余暇活動を行うための新たな興味・関心を喚起し、健全で豊かなライフスタイルの形成にも役立ちます。

安全なキャンプのためにPART 8 ～楽しく学ぶキャンプの安全～

2007年7月15日発行

発行者 酒井哲雄

編集 社団法人日本キャンプ協会 安全管理委員会

高見 彰 畠中 彬 大橋光雄 佐藤初雄 長井せつ子

中村正雄 野間口英敏 吉田大郎 吉野宏美

イラスト 前澤桂子

発行所 社団法人日本キャンプ協会

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 国立青少年総合センター内

TEL : 03-3469-0217 FAX : 03-3469-0504

E-mail : ncaj@camping.or.jp <http://www.camping.or.jp/>

印刷 有限会社サンエイプレス



NCAJ

National Camping Association of Japan

Copyright (社)日本キャンプ協会 無断転載を禁ず